

2024

シンポジウム

彫刻を さわる 時間

素材と触覚

2024年
日時：11月8日〔金〕
18:30~20:30

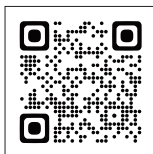
会場：大分県立芸術文化短期大学
人文棟大講義室
〔対面およびZoomによるオンライン配信〕

「彫刻をさわる時間」シンポジウムの4年目は、彫刻をさわるときの素材の感覚について考えます。
シンポジウムと合わせて実施する大分県立盲学校でのワークショップの講師に、今回は竹を用いた立体造形の作家・長谷川絢氏と竹工芸の研究者・武関真衣氏をお招きしました。これまで粘土や石膏、木、bronzeといった素材の彫刻を子どもたちと一緒にさわってききましたが、竹という素材をさわる感覚がどのような「時間」を生み出すのか、ほかの素材とのちがいや共通性などを見出す場になればと思います。

参加費：無料

参加方法 会場(定員/50名)
Zoom(定員/200名)

申込先



申込期限：11月4日〔月〕

- 会場での参加を希望される場合は、下記問合せ先にメールでご連絡ください。(先着50名)
- Web会議ツール「Zoom」での参加希望は、こちらの申し込みフォームからお願いします。

問合せ先 大分大学教育学部 村上佑介研究室
〒870-1192 大分市大字旦野原700番地
E-mail: y-murakami@oita-u.ac.jp
※お問い合わせはメールでお願いいたします

パネリスト

- 長谷川 絢 ■ 美術家
武関 真衣 ■ 大分県立美術館 専門員
広瀬 浩二郎 ■ 国立民族学博物館 人類基礎理論研究部 教授
篠原 聡 ■ 東海大学 資格教育センター 准教授
田中 佐和子 ■ 大分県立中津支援学校 教諭
村上 佑介 ■ 大分大学 教育学部 准教授

ファシリテーター

- 田中 修二 ■ 日本大学 芸術学部 教授
高橋 泰佳 ■ 大分県立日出支援学校 教諭

彫刻と竹工芸

彫刻を

さわる時間

プロフィール

パネリスト

長谷川 絢 (はせがわ けい)
1986年神奈川県生まれ。美術家。2009年京都伝統工芸大学校高度専門課程修了。卒業後はベネズエラにて竹の加工技術指導を2年間行う。竹工の伝統技法である「束ね編み」を独自に発展させた「筒束ね編み (つったばねあみ)」を用いた彫刻作品を2017年から発表開始。他者と接することで生じる意識をテーマに、リサーチと分析を繰り返しながら制作する。2018-19年「ジャポニズムの150年」展 (パリ装飾美術館)、2023年「跳躍するつくり手たち」展 (京都市京セラ美術館) 等に参加している。

武関 真衣 (ぶせき まい)
1996年東京都生まれ。2020年東京学芸大学教育学部卒業、2022年武蔵野美術大学大学院修士課程修了。大学院では教育を視点とした竹工芸の普及に関する修士論文を執筆。2024年大分県立竹工芸訓練センター修了、日本新工芸展初入選。現在、大分県立美術館専門員 (2024年4月-)。理論と制作、両方を通して得た経験から、竹工芸の魅力を多くの人に伝える活動に取り組んでいる。

広瀬 浩二郎 (ひろせ こうじろう)
1967年東京都生まれ。13歳のときに失明。筑波大学附属盲学校から京都大学に進学。2000年同大学院にて文学博士号取得。専門は日本宗教史、触文化論。2001年より国立民族学博物館に勤務。現在は人類基礎理論研究部・教授。「ユニバーサル・ミュージアム」(誰もが楽しめる博物館) の実践的研究に取り組み、「さわる」をテーマとする各種イベントを全国で企画・実施。無視覚流鑑賞法の創始者。

篠原 聡 (しのはら さとし)
1973年東京生まれ。2006年成城大学大学院文学研究科 (美学・美術史専攻) 博士課程後期単位取得退学。東海大学課程資格教育センター講師を経て、2012年より同センター (現・資格教育センター) 准教授。「ともいきアートサポート事業 (神奈川県)」や特別支援学校との連携、屋外彫刻のメンテナンス活動などを通じてユニバーサル・ミュージアムの実践に取り組む。鎌倉市籾木清方記念美術館客員研究員 (2006年-)、読売新聞アートアドバイザー (2013年-)、秦野市文化振興基金活用懇話会委員 (2017年-)、小田原市郷土文化館協議会委員 (2019年-) など。

田中 佐和子 (たなか さわこ)
1976年大分県生まれ。1999年大分大学教育学部小学校教員養成課程卒業。高等学校の勤務を経て、2008年より大分県立新生支援学校教諭。2011年より大分県立日出支援学校、2017年より大分県立盲学校勤務。同校の特別支援教育コーディネーター、幼稚部担任を経て、現在、大分県立中津支援学校に勤務 (2024年-)。

村上 佑介 (むらかみ ゆうすけ)
1987年愛媛県生まれ。2014年広島大学大学院教育学研究科博士後期課程修了。博士 (学術)。大阪城南女子短期大学講師を経て、2020年より大分大学教育学部講師、2022年准教授。専門は彫刻制作、美術教育。主な作品に《不自由な抱擁》(「第45回日彫展」日彫賞受賞、2015年)、《そしてまた夢を見る》(「第46回日彫展」日彫賞受賞、2016年) などがある。日本彫刻会陳列委員 (2016年-)、大学美術教育学会会員 (2012年-)。

ファシリテーター

田中 修二 (たなか しゅうじ)
1968年京都市生まれ。成城大学大学院文学研究科博士課程後期修了。博士 (文学)。専門は近代日本美術史。大分大学教育学部教授を経て、2024年より日本大学芸術学部美術学科教授。屋外彫刻調査保存研究会運営委員。主な著書に、『近代日本彫刻史』(2018年)、『福田平八郎 人と言葉』(2024年) など。2007年度より大分市と連携して屋外彫刻作品のメンテナンスを実施。大分県における障がい者の芸術活動支援に関する委員会等の委員をつとめる。

高橋 泰佳 (たかはし やすか)
1989年大分県生まれ。2012年京都橘大学文学部歴史学科卒業。同年、学芸員資格取得。2014年兵庫教育大学大学院学校教育研究科特別支援教育専攻修士課程修了。2014年大分県立別府支援学校を経て、2015年より、大分県立盲学校勤務。2019年12月おいた障がい者芸術文化支援センターセミナープログラムに協力者として参加する。国東市立国東中学校教諭を経て、現在、大分県立日出支援学校に勤務 (2024年-)。

プログラム

18:30	あいさつ
18:35	主旨および概要の説明 (田中 修二、高橋 泰佳)
18:50	基調報告：長谷川 絢
19:20	休憩
19:30	パネルディスカッション
20:20	質疑応答～閉会の言葉 (-20:30)